

山添村の地域資源を活かした観光による内発的むらづくり

山添むらづくり協議会会長 奥谷和夫

1. 活動方針・目的

奈良県山添村は、鉄道が無く、コンビニが無い、信号が一つだけという「無い無いづくしの村」である。この村の中で地域資源を掘り起こし、グリーン・ツーリズムなど地域資源を活かした観光による内発的むらづくりをすすめる。

2. 活動内容

- ①地域ウォッチングや観光ボランティアの研修会などをおして、地域資源の掘り起こしをすすめるとともに、それを地域マップとして仕上げる。
- ②観光ボランティアの会を立ち上げるとともに、観光ボランティアガイドの養成にとりくむ。
- ③奈良県がすすめる「宿泊観光を促す地域の魅力づくり事業」に応募し補助金を受け、農村民泊の推進、体験・学習型イベントの開催、村の語り部・インタープリターの養成などにとりくむ。
- ④奈良県立大学のゼミと協力して地域住民のグリーン・ツーリズムに対する意向調査やモニターツアーを実施する。
- ⑤以上のとりくみをおして、山添村で農家民宿や農村民泊をする観光客が増えつつある。

3. 過去の失敗事例

- ①山添村では、観光等に本格的にとりくんだことがなく、地域全体にとりくむ前からあきらめの境地に入っており、行政も住民も、当初変わり者のとりくみ程度の認識で、活動の広がりを欠いた。
- ②せっかく地域に豊富な食材がありながら、観光客に既存の仕出し弁当程度の食事しか提供できず、観光客を失望させるということがあった。
- ③あくまでも、ボランティアとしてのとりくみであり、こうした活動していくうえでは、事業として成り立っていくしくみにしていかないと、将来的に破たんする。

4. 今後の課題等

- ①広報活動を充実させ、会のとりくみを村内外に広く知らせることによって、活動の社会的認知をえる。
- ②農家民宿や農村民泊の協力者を広げるとともに、地域の魅力となるお土産や食の開発をすすめる。
- ③こうした活動がコミュニティビジネスやアグリビジネスとして成り立っていくよう、採算面も重視してとりくんでいく。

山添村の地域資源を活かした 観光による内発的むらづくり

関西元気な地域づくり発表会

山添村紹介

- 奈良県の北東部、三重県との県境の人口4600人の村
- 特産物・大和茶
- 縄文時代を通しての遺跡が村内各所に
- 住民投票の結果に基づき、「自立のむらづくり」をすすめる

鉄道が無い、コンビニが無い、信号が一つ
「無い無いづくしの村」



何も無い村のお宝発見



- 村は、行財政改革をすすめる
- 住民は、「山添村の内発的開発・発展を考える会」や観光ボランティアの会結成
- 「地域ウォッチング」や研修会などにとりくむ



石仏やイワクラ、蛍、星空



「宿泊観光を促す地域の魅力づくり事業」に応募、採択

- 観光による地域振興策を「観光ボランティアの会」など、住民主体で運営
- 今後の宿泊型観光地への移行を目指す
- インタープリター(村の語り部)の養成
- 動植物観察、イワクラ、縄文文化の学びから郷土愛や地域への誇りを培う

《事業の最終目的》

観光と結んだ農業。地域の農産物や花、自然の恵みをお金にかえるしくみづくり。その結果として、村民所得増、税込雇用増→**自立のむらづくりの実現**

農村民泊などで宿泊型観光地めざす



この間の活動の成果より

観光ガイド回数や人数の推移

2006年度 13回

2007年度 57回

2008年度 82回

2006年度 130人

2007年度 392人

2008年度 711人



ご清聴ありがとうございました